



国民の森林・国有林

中部森林管理局

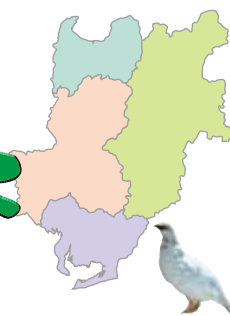
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



賀 正



「飛騨」白山：岐阜県大野郡白川村から撮影（写真提供：日置順昭）

2013年がスタート 「新たな国有林が始動する年」

主な項目	○ 鈴木局長年頭所感 P2 ○ 2012年 主な出来事 P4~5 ○ ニホンジカ被害対策の取組状況 P6~7 ○ 風景紀行「馬瀬川風致探勝林」 P8
------	--



年頭所感

新たな国有林の

スタートに当たって

中部森林管理局長 鈴木 信哉

新年明けましておめでとうござい
ます。読者の皆様におかれましては、つ
がなく新年をお迎えのこととお慶び申
上げます。

また、当局の業務運営に当たり、それ
ぞれの立場でご協力をいただいているこ
とに対しても、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、一昨年の東日本大震災の爪あ
とも癒えぬ中、七月の梅雨前線豪雨によ
り、九州地方北部において山腹崩壊等の
土砂災害が発生、あらためて自然災害の
恐ろしさを思い知らされる年となりました。
更に、国有林野事業の一般会計化に
係る法律の成立、東日本大震災の復興に
向けた海岸林の再生の開始等、林野行政
においても大きな動きのあった年とし
て。

当局における取り組みを振り返って見

ますと、高山帯にまで及んだニホンジカ
被害対策、民国連携のための准フォレス
ター研修・共同施業団地の設定、長野県
北部地震で被災した栄村への支援等、新
しい試みも本格化した年でありました。
更には、充実するカラマツ資源の販売促
進やカラマツ黄葉写真コンテストといっ
た、別の視点での民有林・国有林の連携
を推進してきたこともあげられます。

さて、昨今の森林・林業を取り巻く情
勢に目を移せば、政府が定めた「森林・
林業再生プラン」に基づき、持続可能な
森林経営の確立と地球温暖化の防止、山
村の有する多面的機能の発揮、森林・林
業の再生に必要な人材の育成、国産材の
利用拡大、災害に強い国土づくりなどの
課題に対応するため、森林経営計画に基
づく搬出間伐等の森林整備の実施や、大
夫で簡易な「林業専用道」「森林作業

道」等の路網整備、施業の集約化、公共
建築物等への地域材の利用拡大、木質バ
イオマスの利用拡大、安全・安心の確保
に向けた治山対策の推進といったことな
どが林政の主要施策として掲げられてお
ります。

当局としても、こうした課題に率先し
て取り組むとともに、国有林の有する公
益的機能を十全に発揮させるため、国有
林と民有林の一体的な整備及び保全を更
に推進し、国有林野に求められる役割を
果たしていくことが必要であると考えて
います。

冒頭にも触れましたが、本年四月から
は、昭和二十二年の林政統一以来、国有
林野事業特別会計のもとで行われてきた
国有林の管理運営を、一般会計で行うこ
ととなり、新たな国有林としてスタート
をきるることになっております。当局管内

六十六万㊦の国有林を、次代に適切に引
き継いでいくため、管内の地方公共団
体、関連する業界とも連携しながら、公
益重視の管理経営の一層の推進はもとよ
り、我が国の森林・林業の再生や地域の
活性化など、国有林野事業に求められる
役割の発揮に精一杯努めていく考えです
ので、変わらぬご支援とご協力をよろし
くお願いいたします。

結びに、皆様方の今年一年間のご多幸
とご健勝を祈念しまして、年頭のご挨拶
といたします。



今年の干支は癸巳



今年の干支は「癸巳」です。

「癸巳」は「みずのとみ・きし」と読み、六十干支の三十番目となります。

癸は、十干の十番目「水の弟」で、雨露、沼沢、小川を象徴するそうです。癸の字は「揆」（はかる）の意味で、植物の内部にできた種子が大きさを測れるまで大きくなった状態を表していると考え、巳は、十二支の六番目で季節は初夏・陰暦の四月に当たり、方位は南南東が割り当てられ、動物は蛇が割り当てられています。巳の字は「止む」という意味で、草木の成長が極限に達した状態を表しているそうです。

巳年生まれの有名人をあげると一九四一年・俳優の渡哲也、一九五三年・歌手の研ナオコ・俳優の松平健、一九六五年・漫画家のさくらももこ・俳優の仲村トオル、一九七七年・歌手の氷川きよし、一九八九年・体操選手の内村航平といった方々がいます。

過去に起き

た巳年の出来事を紹介しますと、六四五年・大化の改新、一九〇五年・日露戦争

蛇のお腹に見えますか？



長野県上伊那郡辰野町の横川溪谷にある「蛇石」（天然記念物）

終結、一九二九年・世界大恐慌、一九四一年・太平洋戦争開戦、一九六五年・長野県松代町で地震（松代群発地震の始まり）、一九七七年・有珠山噴火、一九八九年・ベルリンの壁撤去開始・昭和天皇の崩御（平成へ）、二〇〇一年・アメリカ同時多発テロ・東京ディズニーシーオープンなどがありました。

シリーズ

「森林官からの便り」



「木曽森林管理署北滝越森林事務所」

太田 昭信 森林官

北滝越森林事務所は、長野県南西部にある王滝村に所在する合同事務所のの一つです。旧王滝宮林署が管轄していた地区の一つであり、管理する国有林は霊峰御嶽山の剣ヶ峰より南々南西方向へ広がっており、総面積約八、六〇〇鈔を有しています。

当事務所管内には、昭和五十九年に発生した長野県西部地震による御嶽崩れの源頭部から土石流が流れ下った濁沢を一望出来る展望台があります。現地を見ると当時の災害の甚大さが分かります。御嶽崩れによって発生した約三、六〇〇万立方メートルという途方もない土砂の多くが下流の王滝川へ堆積し、その結果ヒノキ造林地であった国有林内に自然湖が生まれました。

現在では景勝地となっており、時には



堆積土砂によってできた自然湖



展望台より御嶽山を望む
(土石流が流れ下った濁沢(左)及び伝上川(右)の復旧状況)

観光バスが入ってくる隠れた観光名所となっています。一瞬にして地形そのものを壊してしまう自然災害の恐ろしさ、静寂化してからは逆に自然が与えてくれる恩恵を感じ、自然との共存というものを考えさせられます。現在、濁沢周辺は今までの復旧事業や未来世紀へつなぐ緑のバトンにより多くの緑が蘇ってきています。

下流には愛知用水の水瓶である牧尾ダムがあり、水源の源流部ということで上流の交流が盛んに行われています。未来世紀へつなぐ緑のバトンはその一環で行われる森林整備ボランティアで、平成二十四年も多数の方が来られました。森

林が水源林として役割を果たし感謝されていることが窺え、さらにその働きの維持増進のために森林整備の促進が不可欠だと感じました。

その森林整備、各事業や調査で現地へ行くとき見たこともない背丈を超える見事なササに右往左往し、歩くというより泳ぐという表現が正しい所がほとんどです。下層植生が存在するのは好ましいことですが、若林齢のうちは植栽木がササに負けないように施業する必要があります。対処に苦慮していますが合同事務所の先輩方に助言をいただきながら業務を遂行しています。



自分の背丈以上の笹の中で

昨年は山歩きに慣れるための一年でした。一般会計化を控え今後の不安もありますが、よりよい山作りを目指し、現地へ足を運びたいと思っています。



太田森林官（合同事務所にて）

二〇一二年 主な出来事

◆1月◆

17 「安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森」協定締結 (中部局)



協定書を手に握手する
城土局長と松川村平林村長

25 国有林土場等活用委託販売初市 (木曽署)

25 国有林間伐推進コンクール表彰式 (中部局)

25 造林・生産業務打合せ (26 中部局)
中部森林技術交流発表会 (1 中部局)



中部森林技術交流発表会で
局長賞を受賞した皆さん

◆2月◆

10 森林計画検討会 (中部局)

23 治山・林道工事コンクール表彰式 (中部局)

27 治山・林道工事コンクール伝達表彰式 (名古屋事務所)

28 森林管理署長等会議 (中部局)

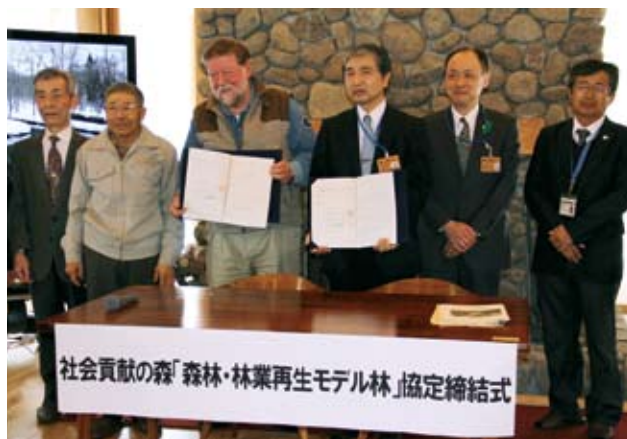
◆3月◆

2 東白川村新集地域森林整備推進協定締結 (岐阜署)

6 木島平村四ノ宮地域森林整備推進協定締結 (北信署)

13 大鹿森林事務所新築 (南信署)

22 「森林・林業再生モデル林」協定締結 (信濃町)
木曽福島森林事務所新築 (木曽署)



協定を掲げる嵯峨北信署長とC.Wニコル氏及び関係者

26 伊那市杉島地区森林整備推進協定締結 (南信署)

27 中津川市加子母地区森林整備推進協定締結 (東濃署)

◆4月◆

16 生産・販売業務打合せ (17 中部局)

19 主任安全衛生管理者等会議 (20 平成二十四年度事業概要記者発表)

23 治山設計説明会 (中部局)

24 森林管理署長等会議 (中部局)

25 森林管理署長等会議 (中部局)

28 みどりのフェスティバル12開催 (瀬戸市)

19 長野林政協議会総合委員会 (中部局)

16 緑のバトン開催 (20 王滝村)

13 長野林政協議会総合委員会 (中部局)

12 岐阜県林政連絡会議 (岐阜市)

9 「長野県植樹祭」開催 (野沢温泉村)

23 「とやま森の祭典」開催 (南砺市)

13 愛知県林政連絡会議 (名古屋所)

12 岐阜県林政連絡会議 (岐阜市)

9 「長野県植樹祭」開催 (野沢温泉村)

13 愛知県林政連絡会議 (名古屋所)



ドングリから育てた苗を植樹
(長野県西部地震で被害を受けた濁川)

25 准フォレスター研修開講 (森技セ)

26 平成二十四年度国有林モニター会議 (中部局)

28 富山県林政協議会 (富山市)

◆7月◆

1 全国安全週間

4 中部森林管理局長交代

9 森林作業道講演会 (中部局)



「より良き森林作業道づくりに向けて」と題した
田邊由喜男氏の講演

9 低コスト作業システム現地検討会 (北信署)

(10 東信署)

(11 南信署)

(12 木曽署・南木曽支署)

(17 18 愛知署)

(30 東濃署)

(31 岐阜署)

(12 高山市)

(12 高山市)



森林探検隊参加者で記念撮影

- 25 長野・岐阜准フォレスター連携推進会議
〔森林探検隊〕
(軽井沢町)
- 22 長野・岐阜准フォレスター連携推進会議
(2 富山署)
- 1 低コスト作業システム現地検討会
(飛騨署)



局を訪れたイラン・イスラム共和国の研修生
(鈴木局長を表敬)

- 23 小坂公務員宿舍新築
(岐阜署)
- 13 イラン・イスラム共和国研修生受け入れ
(25 局、北信・中信署管内)

- ◆ 9 月 ◆
- 4 中部森林管理局総合防災訓練
(中部局)
- 17 地域住民との森林計画懇談会
(東信署管内)
- 23 地域住民との森林計画懇談会
(富山署管内)
- 24 名古屋・長野林政記者クラブ現地視察
(25 岐阜署外)
- 26 平成二十四年度国有林モニター会議
(現地見学)
(東信署他)
- 28 平成二十三年度決算概要等の公表
(中部局)
- 30 地域住民との森林計画懇談会
(岐阜署管内)
- ◆ 10 月 ◆
- 1 全国衛生週間
(中部局)
- 2 森林管理署長等会議
(中部局)
- 10 白山白川自然休養林オフィシャルサポーター協定締結
(飛騨署)
- 23 造林事業現地検討会
(24 木曽・岐阜署管内)
- 23 治山現地検討会
(25 東濃署管内)
- ◆ 11 月 ◆
- 5 会計実施検査
(9 中部局・中信署・南木曽支署)
- 13 中部森林管理局国有林野等所在市町村長有志協議会連絡協議会
(松本市)
- 18 穂の国「いのちの森づくり」植樹祭
(豊橋)
- ◆ 12 月 ◆
- 12 会計実地検査
(14 日中部局・北信署)

森林ふれあい講座							名古屋シティ・フォレスター事業												
12／15	11／10	10／13	8／4	6／9	5／26	3／10	2／18	12／1	11／8	10／20	9／19	9／8	8／8	7／19	6／30	6／13	5／18	5／12	4／21
リース作り体験 （名古屋所）	観賞炭作り体験 （愛知所管内）	湿原植物観察「葦毛湿原」 （愛知所管内）	高性能林業機械生産現場見学 （飛騨署管内）	ほたる観賞会 （愛知所管内）	「木曽ヒノキ備林」と式年遷宮用材斧入れ跡見学 （東濃署管内）	シイタケ菌打ち体験 （愛知所管内）	観賞炭作り体験 （愛知所管内）	除伐2類作業（名古屋・愛知所）	里山整備 除伐作業 （愛知所）	除伐2類・植付作業 （名古屋・愛知所）	間伐作業「大松の森」 （東濃署）	間伐と歩道整備「戸隠森林植物園」 （北信署）	下刈作業「伝統工芸の森」 （南木曽支署）	下刈作業「試験地」 （東濃署）	里山整備「台風被害跡地」刈払い・除伐作業（名古屋・愛知所）	遊歩道整備「御嶽原生林」 （岐阜署）	遊歩道「赤沢」木質チップ舗装作業 （木曽署）	里山整備「山火事跡地」除伐と植付作業 （名古屋・愛知所）	「防風林整備」竹の除去と竹チップ敷設作業 （富山署）

二〇二二年に実施した
森林ふれあい推進事業等



森林ふれあい講座：
リース作り体験 (名古屋事務所)



森林ふれあい講座：
シイタケ菌打ち体験 (愛知所)



シティ・フォレスター事業：
竹の除去と竹チップ敷設 (富山署)

平成二十四年度

中部森林管理局における ニホンジカ被害対策の取組状況

「指導普及課」

中部森林管理局では、野生鳥獣との共存を目指し、南アルプス地域や八ヶ岳地域などで深刻化するニホンジカによる植生被害を防ぐため、森林管理署が地元関係者との連携の下、防鹿柵の設置、くくりわなの設置などを進めてきました。

平成二十四年度には、局内に組織横断的なニホンジカプロジェクトチームを設置し、シカ被害対策の情報・調査等を基に、予算の確保、従前からの対策の課題、新たな方策の具体策等を検討するとともに、本年度追加対策として囲いわなの取り組みを重点的に進めることとしました。

直営による囲いわな捕獲実証試験の実施や、外部委託による設置と運用試験調査などの取り組みの内容を紹介します。

一 捕獲実証試験の取組

(二) 実施の考え方

農地等の対策としても採用できると、簡易・安価な作設、見回り・修繕等の負担軽減、食肉として活用、地域一帯の適正生息数から溢れた個体を捕獲することなどを基本に、随時改良を加えつつ固定式の囲いわなを作設。

○設置場所…年間生息地、被害発生地、生体搬送用路網隣接地、柵支持用立木

所在地、里に近い国有林内、効率的な見回りが可能な周回路沿線

○規模等…柵の素材は見通しが良く破損しにくいもので、周囲延長二〇〇メートル程度、高さ二メートル程度、捕獲ボックスへの追い込み容易な先細り形、間口が広く上部に障害物のないゲート（降雪・笹等でも閉鎖できる構造）

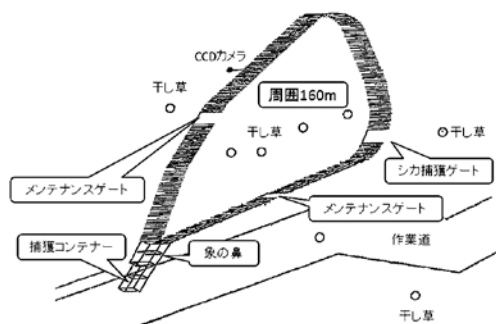
○設置方法…降雪等での倒壊防止のため立木を最大限利用（柵外周への支柱は避ける）

○誘因方法…ゲート付近内外へ餌を配置（当初は岩塩、以後乾燥牧草と米糠を併用）

○ゲート閉鎖…簡易なシカ接触型仕掛け（監視・通報等の機能を有する機器以外）

(二) 囲いわなの作設と現状

①和田山国有林（二十四年二月設置、間伐材利用の柵）



ゲート付近まで
近寄っているシカ



○シカが押し開ける（入る）ゲートから、常時開口し仕掛けで閉まる方式に修繕。岩塩を餌としてセルフロックスタンション（後述）を併設。

↓ゲート入口までは誘引されているが、柵内への侵入は確認できず。間口が狭いのか、柵の見通しが悪く圧迫感を感じるのが、他の要素も含め警戒心を解く工夫が課題。スタンションでの捕獲はないが、岩塩での誘引効果は大きいことを確認。

②大門山国有林1号

（二十四年八月設置、金網製）

○金属製の網目柵使用。ゲートは横開き閉鎖式。追い込み用内部柵と誘引柵併用。設置以後、ゲート閉鎖を携帯電話へ知らせる機器を設置。



暴れて疲れた
様子の捕獲
シカ

↓十月十日、一頭（推定一歳オス）捕獲、食肉処理施設（茅野市）へ搬送。
（一〜二頭は網目から逃走したものと推定される、金網の構造等が課題）

③大門山国有林2号（二十四年九月設置、ワイヤー入樹脂ネット製）

○柵の所在を慣らした後に仕掛けをセット。ゲートは横開き落下式。獣道タイプ（獣道両側へ柵敷設・出入口二箇所）併用。



逃げ道を探す
2頭目の捕獲
シカ

↓十月二十一日、十一月二十一日、各一頭（二頭とも推定一歳オス）捕獲、食肉処理施設（下諏訪町）へ搬送。

(三) 捕獲用試作機材の設置

○セルフロックスタンション

試作中のセルフロックスタンション二基を、囲いわたの柵と共用及び隣接地に設置。



(静岡県農林技術研究所より借用)

餌を中
のぞき込む
様子

▽視き込むことは確認、狭窄部の首が挟まる所まで入れることまで確認できず。

(四) 食肉としての利用

捕獲したシカを搬送ボックスに追い込み、生体のまま食肉処理施設へ搬送、差し当たり食材として供給・利用方法を模索。



捕獲され搬送ボックスで



加工後、良質な食肉へ

▽これまで捕獲した三頭はいずれも若く、小型のため収容は容易であったが大形のオスの場合は収容方法が課題。逃げ

出そうと金網に体当たりしていたが、充血等はほとんどなく食肉加工後の肉質は良好であった。捕獲地から受入処理施設が近隣地域にあることや、肉以外の部位の多利用の可能性を模索。

二 委託による捕獲実証試験調査の実施

(一) 調査目的…狩猟者の減少、高齢化が進んでいる中、企業や一般の人が設置でき、大量捕獲も可能な囲いわたによる捕獲と、シカ肉の有効利用を考慮した個体数管理方法の考察を行う。

(二) 事業期間…平成二十四年十一月十九日～平成二十五年三月八日

(三) 実施場所…東信森林管理署及び南信森林管理署管内の国有林内。

(四) 事業概要…囲いわたを六箇所新設し、既設の三箇所を含めた維持管理を行う。

獣害防止ネットと周囲を囲み、捕獲ゲートと捕獲ボックスを設置。干草等で柵内に誘き寄せ、侵入して仕掛けに接触したらゲートが落下（閉鎖）して閉じ込めるわたを作設するとともに、必要な修繕。

見回りで捕獲を確認した場合、運搬用暗室ボックス又は運搬ネットと生体のまま食肉処理加工施設（下諏



訪町又は茅野市）へ搬送。

三 被害対策共有の取組

(職員アンケートの実施)

○局管内に勤務する全職員に対し、アンケート調査を実施。

▽職員の公私にわたる目撃情報、アイデア等を被害対策に反映。

▽被害地域、被害発生が見込まれる地域での、自主的・参加型取組を誘発する取り組みになることを期待。

※アンケート結果は、

<http://www.rinyamati.go.jp/chubu/sidou/121227-5.html>

四 その他、各森林管理署における取組

▽職員によるくくりわた設置。

▽猟友会との委託契約による捕獲。

▽猟友会へのくくりわた貸与。

▽県広域捕獲隊との連携による高山

帯での捕獲。

▽被害対策協議会

との協働による高山

山帯での高山植物

防鹿柵の新設・

ネットの上げ下ろ

し・修繕。

▽冬期間の効率的

な有害鳥獣捕獲を

行うための林道除

雪。

▽中央アルプスへの侵入確認の調



査。

▽委託による移動式囲いわたの検証。

(以上、南信署)

▽猟友会との委託契約による広域捕獲。

▽被害対策協議会と連携し、くくりわた

の貸与や猟友会への捕獲委託。

▽県出先機関と協働による捕獲用誘導

ネットやフィールドの提供協力。

(以上、東信署)

▽被害対策協議会と連携し、くくりわた

の貸与による捕獲

▽北アルプスにおける高山帯の被害防止

の検討。

▽市町村へのくくりわたの貸与。

(以上、中信署)

▽保護林内での食害防止のための電気柵

設置と大学と連携した調査。

▽職員のくくりわたによる捕獲技術の習

得。

▽混交林化による保護対策を模索。

(東濃署)

▽シカの忌避木と混植し期待樹種の被害

軽減試験地を設定・調査。

(技術センター)

▽造林地等への防鹿柵設置、造林木への

忌避剤塗布。

▽被害の未然防止を図るための目撃情報の収集。

(以上、該当のある全署(所))



馬瀬川の鮎

「岐阜署」岐阜県下呂市の西部に位置する馬瀬地区（旧馬瀬村）は、清流で有名な馬瀬川沿いの山間地域です。平成十六年の町村合併以降、地域住民と行政が協働して、地域の重要な資源を保全、維持、活用していくことを目標とする「馬瀬地方自然公園・住民憲章」を定め、観光振興、景観の維持・整備、森林の保全、河川美化等に地域全体で取り組んでいます。

馬瀬地区においては、清流馬瀬川と馬瀬川の鮎が全国的に有名で、馬瀬川の鮎

川上国有林南西部

ふう けい き こう
風景紀行
馬瀬川風致探勝林
93
岐阜森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)



馬瀬川風致探勝林

に関しては、平成十九年に開催された鮎の味比べコンテスト「利き鮎会スペシャル in Tokyo」で日本一の評価を得ました。

そんな日本一の鮎を育む馬瀬川の水源地の一つが川上国有林です。川上国有林は日本三百名山の一つである川上岳を有し、秋には紅葉を楽しむ登山者で賑わうほか、馬瀬川の下流に上質な水を供給しています。

川上国有林南西部の国道二五七号線沿いには馬瀬川風致探勝林があり、主にヒノキ・サワラ・モミ等の針葉樹とブナ・ミズナラ・トチ等の広葉樹を主体とする天然林により構成されています。

針葉樹と広葉樹が入り交じった針広混



老谷ささやきキャンプ場

交林であるため、初夏には新緑、秋には紅葉と季節折々の景観の変化を楽しむことができます。さらに、近くを流れる馬瀬川の透き通った水が森林の景観をより一層引き立たせます。このように優れた景観や立地条件から、馬瀬川風致探勝林は自然観察、自然探勝に適した森林となっています。

川上国有林南西部の森林は馬瀬川風致探勝林のほかにも、紅葉で有名なせせらぎ溪谷県立自然公園、保護林の一つである郷土の森（老谷ささやき自然の森）に指定され、維持管理がなされています。

また、付近には川上国有林と馬瀬川に挟まれる形で「老谷ささやきキャンプ場」があり、年間一、五〇〇〜二、〇〇〇人程度の利用客がキャンプを楽しんでいます。

初夏から秋にかけての川上国有林南西部の森林はとても見物で、そこへ向かう道中にも馬瀬川と森林が織りなす綺麗な景色を観ることができます。

休日は馬瀬川風致探勝林の豊かな景色と日本三名泉である下呂温泉で日頃の疲れを癒やしてみたいかがでしょうか。



川上国有林と馬瀬川

▼所在地（馬瀬川風致探勝林）

岐阜県下呂市馬瀬川上

▼アクセス

「公共交通機関」

【馬瀬川風致探勝林・老谷ささやきキャンプ場】JR高山本線飛騨萩原駅からタクシーで約四〇分

「自家用車」

【馬瀬川風致探勝林・老谷ささやきキャンプ場】東海北陸自動車道道庄川ICから約五〇分